

生誕百年紀念

石川紫耀都評評選

303516/2
TU984

集

石川宗耀都事詩函論集

装幀 長谷川純雄

生誕百年記念

石川栄耀都市計画論集

平成五年九月七日発行

編集 石川栄耀博士生誕百年記念事業実行委員会

発行 社団法人 日本都市計画学会

東京都千代田区麹町三ノ四ビルディング内
〒一〇二 電話 〇三―三二六一―五四〇七

制作 株式会社 彰国社

東京都新宿区坂町二五 (〒一六〇)

序 文

平成五（一九九三）年は、石川栄耀先生の生誕百年にあたり、この年を記念して、日本都市計画学会は、初代副会長として学会の基礎を据えられた御事績を想い、先生を偲ぶ各年代の関係者の回顧の文章を集めて学会誌の特集号とし、また、ここに見られる「石川栄耀都市計画論集」を発刊し、さらに、先生の御生誕の日（九月七日）を期して、記念会を開催する運びとなっている。

先生は、旧制盛岡中学校三年生の春の思い出を書いておられる。

——友達と町の中心部にある本屋に行き、そこで「趣味の地理 欧羅巴前篇」ヨーロッパ（小山内通敏著）という水色のクロースの紙質のよい天然色版の写真の入った美しい本を見つけた。何ということなしにそれを買ひ、読みながら歩いて帰って来た。

それは人文現象というものに対し、人生的な興味を与え、読者と筆者と相たずさえて世界をホウロ

ウしようとする本である。――

これが後年、先生を都市に結びつけ、都市計画の道に入る端緒となった。先生は、都市計画を生涯の仕事とする意欲を次第に強くされたが、大学入学にあたり、東京大学土木工学科をえらばれ、土木工学から少しずつ生涯の目標にむかつて歩きはじめられた。

その長い人生の旅路のあらゆる機会に先生の書き残されたものの一部を集大成したのが本書である。

先生が最も私淑された海外における都市計画の先覚者は、イギリスのレイモンド・アンウィン (Sir Raymond Unwyn, 1863-1940) であった。関東大震災直後、ロンドンを訪れた先生は、アンウィンの警咳^{けいがい}に接しえたのである。先生二十九歳、アンウィン五十七歳であった。アンウィンは、オックスフォード大学に学び、はじめ神学を勉強して聖職につくことになっていたが、志を変え、製図工の修業をして自分の考え方を図面上に示す技術を習得して、次第に住宅地の設計から都市計画の分野に進んだ経歴をもっている。

石川先生も、若き日に都市への情熱を教えられ、都市計画の道に入り、多数の専門書を執筆され、都市の将来への関心をひろく一般社会にまでひろげられ、さらに大学教授として後進を育てられた。都市計画にたずさわる人びとは、さまざまの分野、さまざまの立場から都市の将来に関係を及ぼし

ている。ワシントンのランファン、パリのオスマン、ロンドンのアーパークロンビー、ニューヨークのモーゼス、数例を挙げたに過ぎないが、石川先生を記念するにあたり、「都市計画家の資質」について改めて考察するときであると感ずる。

平成五年九月

東京大学名誉教授 井上 孝





沖縄、摩文仁の丘に立つ(左・石川栄耀博士、中央・清子夫人、右・当間那覇市長)
—昭和30年8月撮影—

社会に対する愛情

——これを都市計画という——

石川 梁 亮

目次

序文	井上孝
序文	xi

第一 都市計画の道

私の都市計画史	3
区上および都市計画考歷程	72

第二 名古屋の都市計画と土地区劃整理

若き日の名古屋	155
名古屋の区劃整理の特質	170
名古屋の区劃整理は何をしたか — 中小都市の都市計画当局の為に	216
名古屋に於ける区劃整理の本態	227

名古屋市の交通問題とその対策	244
----------------	-----

第三 盛り場の研究

夜の盛り場の種々相	265
「盛り場計画」のテキスト——夜の都市計画	286
盛場の研究	304
都市生活圏論考——特に盛り場現象について	325

第四 国土計画論

国土計画の史的発展	393
現代国土計画の性格	402
大都市の疎開問題と都市計画の能力限界——第一回人口問題全国協議会のために	413
国土計画方法試論	421
国土計画の最終課題たる「生活計画」について	434
日本国土計画の主課題「生活圏計画」	465
国土計画と日本の地方計画	496

第五 東京論と東京戦災復興計画

大東京の構想 523

東京都の皇国都市的構想 554

都市復興の原理と実際 588

・都市改造の理論 588

・帝都改造計画の構想 623

・帝都復興改造案要旨（試案） 650

新首都建設の構想 682

東京復興都市計画論 703

文化建設都市計画の手法論——特別地区及び地方計画を中心として 748

東京復興都市計画を中心として大都市形態の論究 762

首都建設計画の主要題目 777

第六 都市計画による地方都市振興

都市計画による都市振興読本——或市長に贈れる 791

上田と近郷の発展策について 828

那覇市都市計画の考察	849
大長岡市建設之都市計画構想	910
石川栄耀略年譜	969
石川栄耀の著書と著作年表	971
著書紹介	971
著作年表	977
後記	991

第一

都市計画の道

私の都市計画史

前 置

都市計画生活、既に三十数年になった。

これで一応都市計画の現場から退く事になったが、然し前線から退いただけで、今後とも都市計画生活に愛りはない。

都市計画を以つて一生を貫くつもりなのである。

ただ、第一線生活としては一区切なので、おすすめにより、ここで出発点まで回顧して見る事にした。

元より、ただ頭の中に思い浮ぶままである。

茫として夢の如き過去であり、前後ドウ着も予想される。

ただ「動き」の実態を描いて見たいと思うだけである。

×

都市計画の道。

考えて見れば「平凡であろう」と思いつつ歩き出した道であつたが、存外に波乱のある道であつた。然し「歩いて」好かつたと心から思つてゐる。何かこの道は人生本道に通じてゐる様な気がするのである。